常供の燔祭（日ごとの供え物／日ごとの献げ物）

NO COPY H.Taniguchi

➲新共同訳：日ごとの（供え物）→the dail תָּמִיד

1:ダニエル書 8：11
その上、天の万軍の長にまで力を伸ばし、（すべての部族、民族、国語、国民から）**日ごとの供え物 the daily（→תָּמִיד**タッ・ミード：規則的な［毎日の］犠牲）［sacrifice：犠牲→原文にはない言葉］（→天の聖所におけるイエス・キリストの犠牲と執り成し）を廃し、その聖所を倒した。
→㊟「タミードゥ」（ヘブライ語）のみで、「日ごとの供え物」という意味を持つ。
2:ダニエル書 8：12
また、天の万軍を（日ごとの）**供え物**と共に打ち倒して罪をはびこらせ、真理を地になげうち、思うままにふるまった。
3:ダニエル書 8：13
わたしは一人の聖なる者が語るのを聞いた。またもう一人の聖なる者がその語っている者に言った。「この幻、すなわち、**日ごとの供え物**が廃され、罪が荒廃をもたらし、聖所と万軍とが踏みにじられるというこの幻の出来事は、いつまで続くのか。」
4:ダニエル書 11：31
彼は軍隊を派遣して、砦すなわち聖所を汚し、**日ごとの供え物**を廃止し、憎むべき荒廃をもたらすものを立てる。
5:ダニエル書 12：11
日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。

➲口語訳：常供の燔祭
→燔祭：古代ユダヤ教において、神に捧げる神聖な儀式で、生贄の動物を祭壇上で焼き尽くすこと。「燔」は「あぶり焼く」という意。
1:ダニエル書 8：11
またみずから高ぶって、その衆群の主に敵し、その**常供の燔祭**を取り除き、かつその聖所を倒した。
2:ダニエル書 8：12
そしてその衆群は、罪によって、**常供の燔祭**と共に、これにわたされた。その角はまた真理を地に投げうち、ほしいままにふるまって、みずから栄えた。
3:ダニエル書 8：13
それから、わたしはひとりの聖者の語っているのを聞いた。またひとりの聖者があって、その語っている聖者にむかって言った、「**常供の燔祭**と、荒すことをなす罪と、聖所とその衆群がわたされて、足の下に踏みつけられることについて、幻にあらわれたことは、いつまでだろうか」と。
4:ダニエル書 11：31
彼から軍勢が起って、神殿と城郭を汚し、**常供の燔祭**を取り除き、荒す憎むべきものを立てるでしょう。
5:ダニエル書 12：11
常供の燔祭が取り除かれ、荒す憎むべきものが立てられる時から、千二百九十日が定められている。

➲聖書協会共同訳：日ごとの献げ物
1:ダニエル書 8：11
そして、大いなる軍勢の長にまで力を及ぼした。**日ごとの献げ物**は廃止され、聖所は打ち倒された。
2:ダニエル書 8：12
背きの罪のゆえに、軍勢は、**日ごとの献げ物**と共に引き渡された。その角は真理を地に打ち捨て、思いのままに振る舞い、成し遂げた。
3:ダニエル書 8：13
私は、一人の聖なる者が語るのを聞いた。また、別の聖なる者が、語る者にこう語った。「**日ごとの献げ物**が廃止され、背きの罪が荒廃をもたらし、聖所と軍勢が踏みにじられるこの幻はいつまで続くのですか。」
4:ダニエル書 11：31
彼から派遣された軍隊は立ち上がり、聖所と砦を汚し、**日ごとの献げ物**を廃止し、荒廃をもたらす憎むべきものを据える。
5:ダニエル書 12：11
日ごとの献げ物が廃止され、荒廃をもたらす憎むべきものが据えられて、千二百九十日となる。

【参考】常供の燔祭1

➲ダニエル書 8：11　口語訳：またみずから高ぶって、その衆群の主に敵し、（すべての部族、民族、国語、国民から）その**常供の燔祭**（→**常供**[**権力の笏(主権)**]）を取り除き、かつその聖所を倒した。

→**常供**＝権威、権力、王座、権威＝**笏**→もともと神の王座にあった権力の笏は、アダムに手渡され、サタンに奪い取られ、国から国へと受け継がれた。それは神の御座と、キリストの王国を共に治める聖徒たちの手に戻されるまで続く。

➲ Daniel Chapter 8:11　欽定訳：Yea, he magnified himself even to the prince of the host, and by him the daily sacrifice was taken away, and the place of his sanctuary was cast down.　原文にはない言葉（以下、同）

→the daily **תָּמִיד**タッ・ミード tâmîyd, taw-meed'; from an unused root meaning to stretch; properly, continuance (as indefinite extension); but used only (attributively as adjective) constant (or adverbially, constantly); elliptically the regular (daily) sacrifice:—alway(-s), continual (employment, -ly), daily, (n-)ever(-more), perpetual. 使われていない語源で、伸びるという意味。正しくは継続（不定延長）だが、形容詞として限定的に使われるだけ（または副詞的に、絶えず）。省略形では、規則的な（毎日の）犠牲、つまり、常に（-s）、継続的（雇用、-ly）、毎日、（n-）常に（-more）、永久。

→「タッ・ミード」は不定の延長を含む。それは永遠から永遠にわたる王の笏（主権）である。

→「常供」である王の笏（主権）は、将来地上の王たち（異教ローマ）から取り除かれ（スール）、教皇制（法王教）ローマの手に渡される。王たちは自ら進んで権力の座を明け渡す。

→権力の座、王の笏（主権）が地上の王たちから取り除かれ、教皇制（法王教）ローマ（荒らす憎むべきもの）の手に渡される時からその統治の終わりまで、字義通り１２９０日ある。

【参考】常供の燔祭2

「常供の燔祭」（ディリー・サクリファイス）（ダニエル　８：１２）の「燔祭」（サクリファイス）という言葉は、人間の知恵によって附加されたもので、本文にはないものであることをわたしは見た。

初代文集 経験と幻 集められる時

「the daily **תָּמִיד**タッ・ミード」は、連続体、不定の長さにおける延長、つまり何度も繰り返し起こっている何かというよりも、永遠から永遠のものに関係がある言葉です。

➢ダニエル書は、**権力の笏（主権）**がバビロンからメド・ペルシア、それからギリシア、ローマ、ヨーロッパの国々、また異教ローマから教皇制（法王教）ローマ、そして最後に巨大な石の王国へと移り変わっていく様子をたどっている（ダニエル書は、国から国へと移り変わっていった**権力の笏**[**主権**]、「力と位と権威」「主権」に焦点を当てている）。

➢ダニエル書において、権力の笏（主権）が国から国へと移り変わり、最後の章で「荒らす憎むべきもの」がそれを手中に収める。これが世界をひとつの体制下に置き、神の声によって最後の救出が行われるまで神の民を迫害する、前例のない勢力である。この概念の故に、ダニエル 12:11 と黙示録 13 章を連結することができる。終末において、「獣」が権力の笏（主権）を手にすることが、次に描かれている。

➢「…その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、…この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、42 ヶ月のあいだ活動する権威[権力の笏(主権)]が与えられた。…さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威[権力の笏（主権）]を与えられた」黙示録 13:3－7。

➢「王の笏（主権、scepter）」と は 、権威の象徴として王様が手に持っている笏[束帯のとき右手に持つもの]のことであるが、その語だけでも王位、王権を意味する。モーセが手に持っていた笏にも、同じ語が用いられる。部族長が手に持っている物もそうであり、祭司であることの象徴であり、後に花を咲かせて実をつけたアロンの杖または「枝」もそうであった。　参考:「警告！」マリアン・ベリー著 サンライズミニストリー

2024.12.06 H.Taniguchi